

一人一人の「学び」を育む指導の工夫 ～「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を通して～

赤平市立赤平中学校 学級数 8 (校長 高岸 春二)

実践の概要

本校は、令和4年度から3年計画で「一人一人の『学び』を育む指導の工夫」を研究主題に研修を推進し、見通し及び振り返りの場面設定やICTの活用を通じて、生徒のインプット・アウトプットや、思考や表現が深まる場面の設定を意識した授業を構築した。

1 実践の目的

本校生徒の各種検査データや日常の様子から、「身に付けさせたい力」として、「基礎・基本の確実な定着」「自己効力感」「自分たちで考えて行動する力」等が挙げられたことを踏まえ、「自己効力感をもって生き生きと学びに向かう生徒の育成」という研究目標を設定した。

2 実践内容

(1) 実施計画

研究の視点を、「学びを実感できる学習活動の設定」、「学びを深めるための学習活動の工夫」と設定し、教職員は所属したグループ内で1人1回以上の研究授業を行うとともに、各グループ1名が市内の研究大会において授業者となり、授業改善を進める。

(2) 取組の具体

視点 「学びを実感できる学習活動の設定」

- ・見通し及び振り返りの場面設定をするために、6種類の表示カード(目標・課題・説明・整理・深める・振り返り)の活用や指導案への明記を行った。
- ・個に応じた指導や少人数指導の形態を用いたり、指導と評価の一体化を充実させたりすることで定着が不十分な生徒への対応を行った。
- ・表示カードを活用し、学習過程を明確化することで教師と生徒が見通しをもてるようにした。
- ・個に応じた指導については、数学では具体物を操作し、合同や相似について理解を深めたり、美術の授業では作業の仕方を事前に動画として準備し提示したりするなど、効果的な方策を実践した。

視点 「学びを深めるための学習活動の工夫」

- ・学びを深めるために、ピア・サポートを取り入れ、生徒同士の関係性を向上させながら協働的な学びを効果的に推進した。
- ・各教科において、自らの学びを深めるツールとしてロイロノートを活用し、生徒の考えの交流を促進した。
- ・理科では、星の動きを確認できるアプリを活用し、グループ内で情報を共有したり、他のグループとの比較を行ったりするなど、ICTを使ったグループ学習等で学びを深めた。

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

生徒アンケート(4点満点)において、「授業中の課題についてしっかり考えて自分なりの答えを出せているか」の項目で令和4年度の3.12ポイントから、令和5年度は3.25ポイントへ向上した。一方で、「今日の授業で学習した内容を振り返ることができているか」の項目では3.07ポイントから3.02ポイントへ、「授業の最初に今日の授業の目標やめあてを理解して授業に臨んでいるか」の項目では3.08から2.99へと減少した。生徒にとって必要感のある課題設定と振り返りの工夫が必要である。

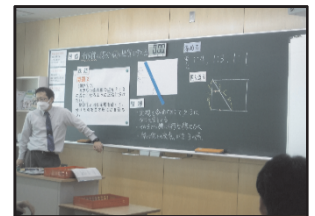
(4) 改善後の取組

課題設定については、生徒が振り返りを行う際に、本時のねらいと関連付けられる具体的な課題設定に留意して取り組んでいる。

また、生徒が単元を通して学習したことを振り返り、日常生活等と関連付けることができるよう、単元末の振り返りを重点化している。

3 実践のポイント

- ・ICTの活用は、他者との協働を促進し、生徒の自己効力感を高めることで、人前で話すことが苦手な生徒の意見等を共有したり短時間で多くの考えを交流したりできること
- ・課題の設定の仕方やICT機器の活用について、教師同士の学び合いを充実させることで、問題点や新たなアイデアが共有され、改善に向けての取組が推進されること



【具体物操作の説明の様子】



【見通しをもたせている様子】



【グループ学習の様子】

授業等改善プロジェクトの推進

白老町立萩野小学校 学級数9 (校長 山田 耕一)

実践の概要

本校では、探究型授業である「白老町スタンダード」を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業づくりや基礎・基本の定着を図る取組を進めるとともに、課題である「目的に応じて必要な情報を読み取る力」や「自分の考えを表現する力」を伸ばし、学習内容の確実な定着を図るよう研究を推進している。

1 実践の目的

萩野小学校の実践課題である「多様な問題解決の過程を通して、基礎・基本を身に付けようとする子の育成」を達成するため、秋田県能代市の探究型授業を参考にしながら、見通しのもとせ方や集団で話し合う学び合いの仕方、どのような資質・能力が身に付いたかを児童が実感できる振り返りの場の設定等の工夫を通して、日常の授業改善に取り組む。

2 実践内容

(1) 実施計画

「R5 授業等改善プロジェクト」を作成し、学校教育目標の「学習にはげむ子」の達成につながるように各学習過程のポイントや年間の授業改善スケジュールを示した。

(2) 取組の具体

教師による個人目標の設定

「授業が変われば子どもが変わる」という視点で、日常の授業の質を向上させるため、年間の授業改善スケジュールの推進に加え、教師一人一人が児童の実態及び学習状況を踏まえた個人目標を設定したことにより、教師が主体的に授業改善を図ることができるようにした。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の明確な位置付け

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を単元指導計画及び一単位時間に計画的に位置付けるために指導案に活動内容や方法を明記し、それぞれの2つの学びが一体的に充実するように、児童それぞれにあった学習の進め方を考えたり、協働的に学ぶ活動を意図的に取り入れたりした。

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

- 「個別最適な学び」と「協働的な学び」を位置付けた授業を日常から意識して行うことにより、各学習段階の活動内容が明確になり、児童の学ぶ意欲の向上や学習内容の目標達成につながったことが、学習の振り返りや児童の発表の様子からうかがえた。

- 児童の学習状況差の解消や教師間で統一すべき内容を確認する必要がある。

(4) 改善後の取組

ICTを活用し、スタディ・ログの確認や思考ツールの効果的な活用により、児童の実態を適切に把握し、個別最適な学び及び協働的な学びを推進することができるよう全体で確認した。

3 実践のポイント

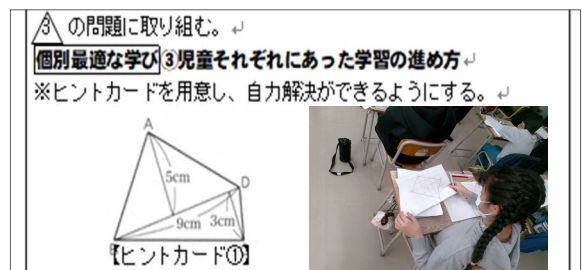
「個別最適な学び」と「協働的な学び」を単元の指導計画に明確に位置付けた授業を行うことで、児童が主体的に学習するとともに、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を意識した授業づくりにつながったこと



【R5 授業等改善プロジェクト】

	【授業が変われば】	【子どもが変わる】
	基礎的・基本的な事項をしっかりと定着させ、活用場面を多く設定することで、	主体的に相手意識をもったコミュニケーションを図ろうとし、多くの児童が既習事項をしっかりと見につけて、円滑に次の学年の学びへとつなげることができるだろう。
	基礎基本を活用して思考、判断、表現する活動場面を意図的に設定すると、	子どもは基礎基本を身に付け、主体的に学びに向かうようになるだろう。
	ペアやグループでの協働的な活動を充実させることにより、	子どもたちの意欲を高めることができ、主体的に学ぶことができるだろう。

【個人目標の設定】



【学習指導案への位置付けとヒントカード活用の様子】

個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を支える自らの学習を調整するための振り返り活動

増毛町立増毛中学校 学級数 5 (校長 亀田 寛人)

実践の概要

本校では、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実により「主体的・対話的で深い学び」を実現するための授業改善として、令和5年度は「振り返り活動」に研究の重点を置き、生徒が「自らの学習を調整するための振り返り」を位置付けた授業づくりを行っている。

1 実践の目的

学習活動を行う中で、次の学習手段を見直したり、自分の計画を修正したりすることで、主体的・自律的に学び続ける生徒の育成を目指す。

2 実践内容

(1) 実施計画

自らの学習を調整するための振り返りには、以下の「3つのステップ」が必要になると仮説を立てた。

学びの把握【メタ認知】 = 1単位時間で、自分の学びがどこまで上手く進んでいるのかを自己評価する。

学びの分析 = 行った評価結果を分析する。

学びを見通す = の結果を踏まえ、次時の学習でどのように学習を進めていくと良いかを見通す。

この3つのステップを記入する「単元シート」を全教科で作成し、継続的に活用した。

(2) 取組の具体

単元の1時間目の授業で学習のゴールを説明し、ゴールにたどり着くために、生徒自身がどんな学習が必要かを考え、1単位時間ごとの学習計画を立てた。そして、学習活動中に自分で立てた計画をもとに学習を進めているのかどうかを振り返り、学習の進捗や方法について、自分で調整できるようにした。

また、授業の最後に5分程度の時間を必ず確保し、単元シートへの記述による振り返りを行った。書くことが苦手な生徒には、毎時間の振り返りの記述が負担となるため、ICT機器を活用した振り返りを行うことができるようにした。

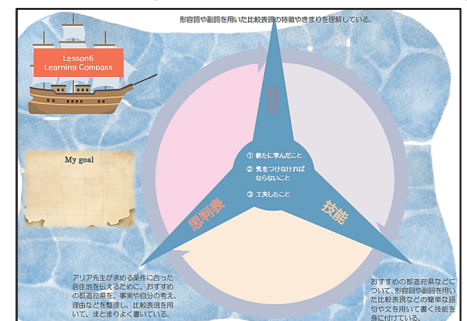
実践を行うにあたり、「3つのステップ」を何度も確認し、書き方の指導を丁寧に行った。

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

実践を通して、「振り返り」によって、生徒が「次の授業で〇〇まで作業を進めなければならない」と、活動に見通しをもち、1単位時間の中でできたこと・できなかったことを言語化することで、達成度が自覚できていたという成果が挙げられた。一方で、「振り返りの書き方を限定せず、教科の特性に応じた形式で行った方がより効果的になるのではないか。」「振り返りの視点を教師から与えるだけでは、振り返りが形骸化するので、生徒自らが自由に使える振り返りや必要感のある振り返り活動にするべきだ。」という課題が挙げられた。

(4) 改善後の取組

上記の課題を改善するために、「学びの羅針盤」に基づいた振り返り活動を行った。図1に示した通り、「知識」・「技能」・「思考・判断・表現」の3つの項目に「新たに学べたこと」「気を付けなければならないこと(間違いやすいこと)」「工夫したこと」の記録を蓄積する。次時の授業に向けての自己調整だけでなく、学習活動中に振り返りながら自己調整を行うことができたことが大きな成果である。また、自分が見直しやすいように自由に記述できるため、単元を終えた後にも何度も活用できることが利点である。振り返り活動は、一朝一夕で生徒の姿の変容が見られるものではない。実践を粘り強く継続していくことが、よりよい実践につながると考える。



【図1】 学びの羅針盤 (英語科)

3 実践のポイント

実践を重ねる中で教師が適宜評価をし、「P D C A サイクル」の視点でより効果的な方法について検討を重ねたこと

自ら学びを調整し、共に高め合いながら深める子どもの育成 ～「単元デザインの工夫」と「学習環境の充実」を通して～

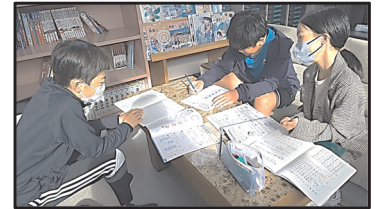
標津町立川北小学校 学級数 10 (校長 丹野 聡)

実践の概要

本校では、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」を実現し、自ら学びを調整しながら、主に自分や教材と向き合い学習する授業を「自由進度学習」と定義し、「単元デザインの工夫」と「学習環境の充実」を図り、研究主題「自ら学びを調整し、共に高め合いながら深める子どもの育成」を目指して実践した。

1 実践の目的

教育目標を「自主的に学び、個性豊かな人を育む（自分のねがいに向かって、進んで学ぶ人に）」とし、自己調整力、情報活用能力、コラボレーション力を中核とした資質・能力の育成に向けて教育課程を編成するとともに、授業改善を推進することにより、自立した学習者の育成を目的とした。



【「自由進度学習」を行う児童】

2 実施内容

(1) 実施計画

「自由進度学習」において、探究的な学習過程（課題設定 情報収集 整理・分析 まとめ・表現）に振り返りを加えた授業づくりを基本とし、「単元デザインの工夫」、「学習環境の充実」を行った。

(2) 取組の具体

「単元デザインの工夫」については、本単元における学び方や、身に付ける資質・能力をループリックに表した「マイプランシート」を作成することで、ゴールイメージをもち、自己決定できるようにすること、学習のゴールを見通すための導入を工夫することで、児童の学習内容への興味・関心や課題意識を高めること、単元の中に複数のチェックポイントを設定することで、評価規準の達成状況を見取るとともに、児童と対話を通して今までの学びのカウンセリングと今後の学びのガイダンスを行うこと、思考力・判断力・表現力等を育成する一単位時間を一斉授業とすることで、協働的な学びの充実を図ったこと、「マイプランシート」に振り返りの内容の例示し、視点をもち自らの学びについて振り返ることで、今後の学習に生かすこと、魅力的で発展的な学習を例示して身に付けた力を活用することで、実生活において活用できることや深く学ぶことができることへの理解を深め、主体的に学習に取り組む態度を高めることに取り組んだ。

「学習環境の充実」については、「いつでも、どこでも、だれとでも」をキーワードに、2階の教室と廊下を「わくわく学習ストリート」と名付け、児童が自ら学びたいような教材・教具を設置したり、発展学習に使用する問題を掲示したりした。また、学び方の基準や選択の方法を全学年で共有し、児童が自ら学びを進められるような環境づくりに取り組んだ。

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

10月に行った「自由進度学習」に係る児童の意識調査では、11項目中10項目の肯定的な評価が90%を超えた。しかし、調査結果と日常的な見取りを関連付けると、深く学ぶことと異学年の児童と共に学ぶことについて、課題が見られた。

(4) 改善後の取組

課題解決に向けて、基本的な授業づくりについての再確認（学習指導要領を根拠とすること、身に付ける資質・能力と学習環境が適しているか検討すること、知識及び技能の習得の時間を短く、思考力・判断力・表現力等を育成する時間を増やすこと）、導入と発展的な学習の見直し（学習内容と生活を関連付け、学力調査やチャレンジテスト等の問題に挑戦する場面を設定すること）、学習評価と見取りの改善（学び方のループリックを活用し、児童のメタ認知を高めること、「教えるより気付かせる」という教師の意識を変革すること）に取り組んだ。

	全く思わない・ 全くしていない	あまり思わない・ あまりしていない	大体思う・ 大体している	思う・ している
楽しさ	1%	0%	33%	66%
自分のペース	1%	1%	31%	67%
友達に聞く	0%	1%	36%	63%
マイプランシート	3%	0%	38%	59%
チャレンジ問題	7%	1%	35%	57%
場所や物	2%	1%	42%	55%
自分で考える	2%	0%	60%	38%
ふりかえり	0%	1%	50%	49%
自己調整	3%	1%	45%	50%
他の教科で	2%	0%	31%	67%
他の学年と	19%	1%	25%	55%

【10月に行った児童の意識調査結果】

3 実践のポイント

- ・教育課程に「自由進度学習」を位置付け、学校全体で組織的に取り組んだこと
- ・総合的な学習の時間や行事における学び方を、日常の授業の学び方と関連付け、同じ探究的な学習過程を繰り返し行い、自ら学びを調整し、共に高め合いながら深めるなどの学び方を身に付けたこと